

第一〇四回

# 二科展 金沢展

令和元年 10月3日(木)～14日(月・祝) 金沢21世紀美術館 市民ギャラリーA



第104回二科展金沢展(二科会・北国新聞社・石川県芸術文化協会主催)は、金沢21世紀美術館市民ギャラリーA会場で絵画・彫刻・デザイン・写真の4部門の作品、196点が美の空間を演出しました。

10月3日(木)～14日(月・祝)の12日間、2956人の来場があり、来場者は作家のみずみずしい感性にふれ、盛況うちに閉幕しました。

二科北陸支部からの地元作品を中心に本展からの選抜作品が披露され、市民ギャラリーAで行われた開場式では、主催者である二科会や北国新聞社をはじめ、多くの美術関係者から賛辞を頂きました。

## 絵画部

88点の作品が会場を彩りました。北陸支部からは会員賞・二科賞・特選の受賞と会友推挙があり、話題となりました。他支部からの選抜作品や特別賞の作品とともに来場者の注目を集めました。

評議員の粕谷支部長、五味祥子、他5名の会員が解説を担当し、たくさんのギャラリーを集め、作家の意図や作品鑑賞のポイントなどをわかりやすく話しました。また、高校の美術専門コース、中学校の美術部の団体鑑賞があり、感性を磨くとともに絵画の主張を引き出すための構図・構成のポイントや効果的な技法に触れ、後進の育成の場となりました。



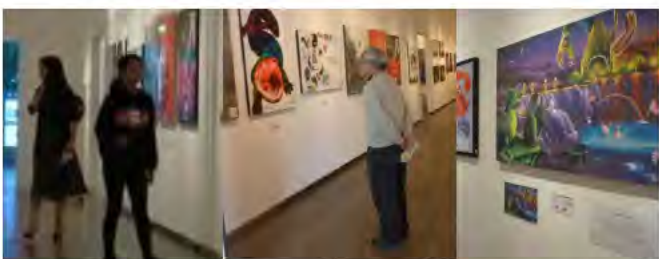
## 彫刻部

会員の林一平氏の大作や気鋭の小品10点が並び、来場者は一つ一つの作品について足を止め、造形美や細部の仕上がりの美しさを丹念に味わう様子が伺えました。

高校の美術専門コースの団体鑑賞では、造形作品の量やフォルムについて学ぼうとする真剣な表情が報じられました。

## デザイン部

31点の意欲作を北陸地区事務局長で会員の響 恵一氏がていねいに解説しました。来場者は、作品の独創性やインパクトのある作風に見入り、足を止めていました。また、高校生・中学生が団体鑑賞し、発想の豊かさや構想の意外性、テーマに迫る構図や配色の工夫を学び会場は終始賑わいを見せていました。



## 写真部

石川支部から5人の初入選作が話題を集めました。会員の土田貴夫氏が良い写真を撮るポイントや対象に向き合う心構えについて、情熱的に作品解説を行いました。67点の展示作品について写真を愛好する人々が、作品について語り合っている場面があちこちで見られ好評を博していました。



## 二科販売コーナー

### ◇終始盛況◇

ありがとうございました  
来場者と気楽に交流でき  
話題も弾みました。



(文責 絵画部会員 茶谷弥宏)